

園芸研究家 ● 成松次郎

菜園の冬越し

いろいろな工夫で長く収穫を楽しむ

寒さに向かい、冬野菜の収穫や越冬させる野菜の防寒対策など、大切な作業が控えています。

冬の晴夜には地面や野菜から熱が奪われ、急激に温度が下がります。これを放射冷却といい、寒害を起すことがあります。

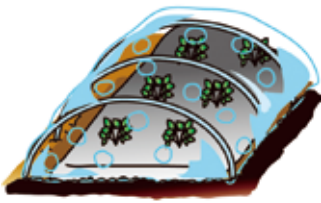
「被覆資材で防寒」

トンネルや不織布のべた掛けは、防寒効果が高いので、上手に使いましょう。ただし、トンネルの密閉は日中に気温が上がリ、軟弱に育ってかえって耐寒性を低下させます。穴開きフィルムの利用や裾を少し開けておいても防寒効果があります(図1)。

「身近な材料を使う」

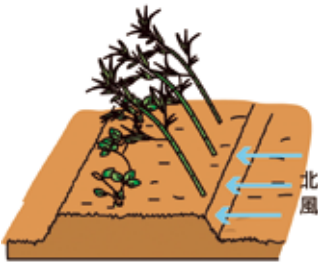
北風を防ぐだけで、野菜周辺の気温を高める効果があります。畝を東

図1 被覆資材を使う



穴開きフィルムのトンネル

図2 身近な材料を使う

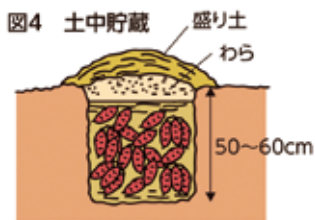


ササタケを畝の北側に斜めに立てる

図3 いろいろな工夫



ハクサイとカリフラワーは外葉を縛っておく



サトイモ、サツマイモ

「土寄せなどの工夫」

ダイコン、カブ、ニンジンなどは、地上に出ている肩に土寄せして寒害を防ぎます。ハクサイやカリフラワーは、外葉の葉を内側に縛って包みます(図3)。イチゴ、エンドウは株元に落ち葉や刈り草を敷いて防寒します。

「保存・貯蔵」

キャベツ、ハクサイを畑や庭で保存するには、株をぴったり並べ、わらや落ち葉で覆い、その上にむしろを掛けておきます。雪の多い地方では、ビニールなどで屋根掛けします。

ダイコン、ニンジンなどは葉を切り落とし、深さ30cmくらいに埋(い)け込みます。

サトイモ、サツマイモは、排水の良い所に深さ50〜60cmの穴を掘り、サトイモでは子芋、孫芋を崩さないように逆さに埋け、サツマイモは芋づるを付けたまま埋けて、30cmくらいに盛り土して、上をシートで雨よけします(図4)。なお、温暖地では、芋類は発泡スチロールのトコ箱に入れ、冬の利用に備えます。また、サトイモは畑から掘り上げなくても、土を厚く掛けておけば、十分冬越しできることもあります。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

園芸書コーナー

家庭菜園の初心者から上級者まで、幅広い方におすすめの園芸書をご紹介します。野菜づくりの参考に、ぜひどうぞ!

やさい畑 春準備号

2020年1月4日発売 定価:922円(税込)

特別企画

コンパニオンプランツの作付け秘策

限られたスペースで少量多品目を栽培したい、というのは多くの家庭菜園愛好家の願いでしょうか。それにはコンパニオンプランツが有効です。組み合わせには夫婦型・友人型・先輩後輩型があり、これらを各畝に配置して連作・輪作の体系に当てはめることがポイントになります。

●別冊付録

農家から学ぶ 野菜の知恵袋 傑作選

昔の農家の知恵を取り上げ、『やさい畑』の名物長寿連載となっている「野菜の知恵袋」。これまでご紹介した中から、野菜の栽培に関する実用情報を中心にまとめた、一家に一冊の保存版です。

※内容は変更になることがあります。



お近くのJAへお申込みください。家の光図書館の情報はインターネットでご覧いただけます。

家の光ネットQ

<http://www.ienuhikari.net>